

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170500039		
法人名	社会福祉法人 伊万里敬愛会		
事業所名	グループホーム椎の木の家		
所在地	佐賀県伊万里市黒川町小黒川145番地1		
自己評価作成日	平成24年2月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成24年3月12日	外部評価確定日	平成24年4月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①古い民家改修型で、利用者が生活してこられた馴染みの落ち着いた雰囲気があり、立地場所としても目の前に湖上公園があり、四季折々に花が楽しめる。また、海にも近く、風光明媚な環境にある。 ②地域住民の方が気軽に訪問されたり、行事にも沢山参加していただいたり、地域に根付いている。 ③3地区の区長、民生委員、地区役員の方に運営推進会議のメンバーに入っているため、事業所として地域の行事ほか色々な情報が得られる。また、地域の方が事業所の内容や認知症に対する理解があり、何かと協力が得やすい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

医師である開設者の自宅病院を活用した二階建て古民家改修型ホームで、懐かしい雰囲気がある。古い街道筋に位置し、商店・スーパー・飲食店・農協・消防分署・公民館が徒歩圏内にあり、普通の日常生活が営まれている。大きな木が植えられた庭には季節の花や野草が咲き、入居者の目を楽しませている。庭には家族の手作りのベンチや長椅子が置かれ、暖かくなるとお茶飲みや日向ぼっこに活用されている。広い縁側や部屋から見える公園の池には大きな鯉が泳ぎ、ホームに居ながらにしてツツジ・桜・藤の花見や野鳥の飛来が楽しめる。入居者に姉妹が複数組おり、アットホームな人間関係を大切に生活が提供されている。職員のチームワークが良く、ホーム内に和やかな空気が流れている。家族との係わりを大切に、行事参加の言葉かけやお誘いの連絡など普段から連携を大切に、関係づくりに努めている。遠方の家族には、広報誌を送る時に入居者本人にも書いてもらった手紙を同封したり電話で声を聞かせるなどし、家族の繋がりを保つよう努めている。隣接地区とも深く交流し、ゆるやかで時間にとらわれない地域生活が営まれている。

自己評価および外部評価結果

【セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。】

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「認知障害があっても、一人一人が地域の中で当たり前暮らしながら、人間の尊厳を大切に生きていく」という理念を毎朝、申し送り時に唱和し、実践している。	生活に根付いた家事労働など、あたり前の普通の生活を支えると言う事業所理念を作りあげている。毎朝理念を唱和し、理念の確認を行っている。職員は入居者に接する態度や声かけ等、日々の業務を通して理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(ふるさと祭り、祇園祭等)に進んで参加し、またホームの行事(夏祭り、消防訓練など)にも地域の方に参加してもらっている。	運営推進会議地区委員を通して地域と深く係わり、地域情報の把握に努めている。自治会に入会し回覧板が回ってくるなど、近隣住民とも近所づきあいがある。地域の行事や神事に入居者が参加し、ホーム行事には地域住民が参加するなど地域の一員として交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭りに招待したり、地域の行事に参加することにより、認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間行事やサービスの状況、利用者の近況、外部評価他の報告を行い、話し合って意見を聞き、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議は隣接3地区の区長や民生委員・行政職員・家族などの参加で開催されている。各区長からは地区の情報だけでなく、花見や音楽会など幅広い分野の情報提供もあるなど活発な意見交換や情報交換がなされている。運営推進会議で得た情報は各地区の常会へ情報発信されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設長、事務長は市役所など関係機関と関わりを多く持ち、常に連携を図りサービスの質の向上に努めている。	経営母体の法人が行政との窓口になっているが、運営推進会議の参加を通して市の担当者と直接情報交換ができています。母体法人が認知症予防推進事業を受けており、グループホームも協力して事業に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事故防止委員会の中で、身体拘束防止について話し合い、ホームの会議などで伝達し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事故防止委員会があり、事故防止対策チーム会議や身体拘束防止の話し合いを持っている。職員は目配り気配りに気をつけ、精神的・言葉による苦痛の無い支援を心がけている。玄関は施錠しておらず入居者は自由に行動でき、地域の人の協力も得ながら職員は見守り支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事故防止委員会の中で、虐待防止について話し合い、職員勉強会等で伝達し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修には参加しているが、現在対象者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長、事務長、部長、ケアマネ、管理者が対応し、必要であれば医師から直接説明をしていただき、十分な説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の折に、利用者家族と一緒に話をしたり、また、行事などへの参加を呼び掛け意見・要望を聞く機会を作り、ほかの職員にもみんなに報告しあってサービスの向上に努めている。	職員は入居者と話す事を心がけ、家族の面会時には意見や要望を聞くように努めている。日常の暮らしの中で感じ取った意見や要望は入居者個人のケース記録や日誌に記載して職員間で情報を共有し、ケアプランに反映させている。利用料は来所支払いとし、家族の面会が多くなるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議にて、職員の意見を聞く機会を設けたり、日常業務の中でもできるだけ意見を聞き反映させている。	毎月グループホーム会議を開き、事務長や施設長は職員と話し合う機会を設けている。管理者は常に職員と話し、要望や意見を聞くように心がけている。出された意見や要望は法人合同の職員勉強会や経営対策会議で対応され、運営に活かせるように検討がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	非常勤から常勤への登用や処遇面、福利厚生、研修など平等に行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県社協ほか法人内外の研修にはできるだけ参加させ、知識や技術を深めてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や会議の折に、意見交換する機会を作り、サービスの質の向上につながるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に十分な情報収集を行い、受け止め、体験入所してもらい、納得してもらってから利用していただく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に家族から十分な情報収集を行ったり、見学してもらい、事業について十分な説明を行い、要望などに耳を傾け、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の一番の要望を聞き、職員全員で話し合い、ほかのサービスを含め、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で、利用者から生活の知恵を聞いたり、料理の手伝いや一緒にお茶を飲みながら、寄り添い、傾聴したりして人間関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会や、行事参加の折に、家族の方と話をし、利用者をより深く理解し、一緒に支えていけるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友達などいつでも自由にきていただけるように心掛けています。使い慣れた家具などを居室に置き、馴染みの場所の確保に努めています。	散歩や買物時に顔なじみの人の所に寄ったり、知人友人の面会時にお茶を出して訪問しやすい環境づくりをするなど、これまでの関係が続いていける様な支援を心がけている。入居開始時や日々のケアを通じて本人の生活歴や人間関係・地域社会との関係の把握にも努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人とのソファの座る位置等に気を配ったり、レクリエーションのときなど利用者全員が参加できるよう計画を立て、孤立されないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院、長期入所などされた場合は、職員と利用者とお見舞いに行ったりしている。また家族も時折、顔を出されて他の利用者が元氣であることを見て行かれる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会話の中での思いや表情を見逃さず、また来訪された折の家族との会話から、思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、願い事実現につなげている。	職員は入居者と会話する事を心がけ、毎日の生活の中で情報を得るように努めている。希望や意向を表すことが困難な入居者には、家族から情報を得るように努めている。知り得た情報は日誌に記載し、職員間で共有してケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や家族との会話により、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌、ケース記録、排泄記録、健康チェック表により現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の業務日誌やミーティングや家族との会話の中から担当者が課題を考え、ケアプラン会議において、職員全体で話し合い介護計画を作成し、家族に提示し了解を得ている。	入居者や家族から要望を聞き、具体的な介護計画が立てられている。毎月プランに沿った評価が行われ、入居者本人や家族の意見・要望、主治医の意見を取り入れて現状に即した介護計画が作成されている。計画の見直しは設定期間に係わらず、変化があればその都度対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録に特変時の状況を記録し、またケアプラン実施表により評価し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族を交えての外部での敬老祝賀会や温泉旅行、また体調不良時の病院受診等家族対応が不可能な時も含め、職員の勤務体制を変更したり、勤務時間を延長したりして柔軟な支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアをお願いしたり、消防訓練等の折に関係機関や地域の方の協力をお願いし協働している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	6ヶ月に一度の健康診断と月1回の診察を受けている。	理事長が医師であるので、契約時に入居者及び家族に説明し事業所の協力医への変更をお願いしている。受診結果や経過は、家族に説明報告がなされている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	椎の木の家のスタッフの看護師や病院受診時に現状を報告・相談し指導を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院と随時連携を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力病院の主治医との連携を図り、家族などとも話し合い、方針を共有している。	重度化や看取りに関する指針があり、契約時に本人及び家族に説明が行われ、同意を得ている。入居者の状態に合わせてその都度家族と話し合いを持つ体制ができており、家族と事業所・主治医は方針を共有している。これまでに看取りの経験は2度ある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修などで学んだり、看護師により職員勉強会などで訓練し、実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方も参加してもらい、避難訓練などを行っている。	年3回消防署指導の消防避難訓練・避難誘導訓練・災害に備えた防災訓練が実施されている。訓練には入居者や地域住民、運営推進会議委員も参加している。夜勤職員は2名で、夜間非常時に対応した職員勤務体制をとっている。	

自己 外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「認知障害があっても、一人一人が地域の中で当たり前に暮しながら、人間の尊厳を大切に生きていく」という理念のもとに対応している。記録などは鍵のかかる書棚に保管している。	入居者本人の人格を尊重した言葉かけや口調に注意し、誇りやプライバシーを損ねることの無い様配慮している。職員は、言葉の暴力や人権尊重の勉強会に参加している。個人情報の取り扱いを明確にし、入居契約時に家族などに説明して同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方の言葉で話しかけ、その方の希望に添った支援を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆっくりしたペースで、会話を大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、整容化粧をし、訪問美容を利用し、本人の好む髪型にカットしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	リビングにも、料理のできる香りがし、配膳準備などを手伝ってもらい、季節の物、行事食に心掛け、また会話の中で食べたいものを聞き対応ができるようにし、全員で食事をする。	食事の下ごしらえや注ぎ分け、おやつ作りなど入居者ができることは職員が見守りながら支援している。入居者と一緒に切り干し大根等の保存食作りもされている。誕生会や季節の行事食、弁当、外食など食事が楽しみになる様なメニュー作りも工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に応じ、量、栄養バランスを考え配膳し、水分の嚥下が悪い人にはトロミをつけたり、刻みにしたり、ふりかけを利用したりして、援助している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所にて歯磨き、義歯洗浄、うがいを行っている。自分でできる方は見守り、出来ない方は支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表により個々の排泄パターンを把握し、待つことにより、排泄のサインが分かるようになった。	入居者一人ひとりに合わせた排泄の自立支援を心がけている。排泄表を活用して排泄パターンを把握し、トイレで排泄できる様に支援しながら尿とりパッドなど本人の必要に合わせて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や毎日の体操などで取り組んでいる。また排便チェックを行いその人に応じた下剤の服用をしている。また施設の栄養士や看護師に相談している。野菜を多く取り入れ、ヨーグルトも毎日取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	望まれる方には毎日の入浴が提供できる。入浴に応じられない場合は無理をせず、清拭で対応している。また一番風呂を希望される方には、一番に誘導するように心掛けている。	入浴は2日に1回を基本としているが本人の希望があればできる限り支援するように心がけている。浴槽の中には可動式の介助イスが設置され、身体の負担を軽くしながら肩までゆっくり浸かれる支援がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室内の温度や明りに気を配り、就寝前の排泄、お茶などでゆっくり休んでもらえるようにしている。また眠れない方には、職員が寄り添い、安心して休んでもらえるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については、薬剤の写真付きの説明書で理解している。薬はホームで管理し服薬まで確認し、症状の変化は月一回の定期検診で報告したり、電話にて医師に報告している。下剤服用者には排便のチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し、たたみ、掃除、食事の準備など仕事をしたほうが落ち着く方と歌などで落ち着く方等、それぞれに合わせて支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の会話を聞き、希望に添って出かけられるように支援に努めている。また花見、コンサート、初詣、ふるさと祭りなど、家族の方の協力を得て外出支援を行っている。	気候が良ければ、近隣散歩や庭の散策・日向ぼっこを楽しんでいる。管理者は入居者が5分でも10分でも外出すると気分転換になると考えており、日々の買物や行事参加、花見、ドライブなどの外出支援も柔軟に行われている。	

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分の小遣いの中から、お賽銭を出したり、孫やひ孫にお小遣いを渡したりされている。また、美容室に出かけたりされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取り次ぎ、手紙の受け取りの支援をしている。手紙、年賀状を書いて出せるように援助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	和風家屋を最大限に生かした民家改修型で、家具調度品も木質が中心で、家庭的で落ち着いた雰囲気に関心している。	毎朝掃除の時に窓を全開し、換気を心がけている。高機能の空気清浄機を活用し、嫌な臭いや湿気がない様に努めている。トイレにもストーブや温風器を設置し快適な温度に保たれている。ホームは大きな古民家であり、戸や襖や廊下がきしむ音などに昔懐かしい安らぎが感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置やリビングの畳、台所などを活用し、一人一人の居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具類を始め、何でも持ち込み自由で、家族の写真を飾ったり、仏壇を持参され安心して生活ができるように心掛けている。	居室は畳の部屋が殆どで、自宅に居る雰囲気である。使い慣れた家具の持ち込みもできるが、ホームにある昔の重厚な家具の使用も可能である。居室は空気清浄機や加湿機などで快適な温度や湿度に保たれている。絵や写真、手芸品などが飾られ、その人らしい居室づくりが支援されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室には手すり、昇降椅子、シャワーチェアを利用し、各居室の段差を解消し、廊下には手すりを設置して、安全、かつ自立した生活が送れるように工夫している。各居室には名札、トイレには手洗いの表示をし、各居室には時計を掛けている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない